

第 2 章

企画・訪問活動報告

- 釜ヶ崎視察..... P 15
- 宮島文化視察..... P 15
- 広島平和学習..... P 16
- 阪神高速(株)訪問..... P 16
- 大阪・京都文化視察..... P 17
- 京都文化体験..... P 18
- 国際環境 NGO グリーンピース訪問..... P 18
- (株)ゼンショーホールディングス訪問..... P 19
- JICA 訪問..... P 19
- JETRO 訪問..... P 20
- IBM 東京基礎研究所訪問..... P 20
- 横浜市立神橋小学校訪問..... P 21

釜ヶ崎視察

日時：8月13日

場所：釜ヶ崎地区

目的

今の日本社会で見え隠れする、貧困問題に実際にふれ、身近なところにあるということを感じる。タブーとされがちな問題の真実を知ること、これからの社会を担う自分たちが、この問題に真剣に取り組む必要があるということを改めて認識する。

概要

大阪の釜ヶ崎（あいりん地区）の歴史や現状に関するレクチャーを受け、実際に歩いて巡回した。施設「ひだまり」を訪問し、生活保護受給者が実際にどのように生活しているかという説明を聞いた。紙芝居劇団「むすび」の事務所を訪問し、どのような活動をしているのか、どのような方が運営されているのか、また、今後の活動について伺った。

評価

夜回りに帯同させてもらい、路上生活をおくる人々がどのように夜をすごすのかを実際に見ることができ、この地域が抱える問題に触れることができた。生活保護受給者のための施設「ひだまり」では支援体制が整っており、今後このような体制が広く拡大すべきだ。日本人でも

あまり触れることがないような日本の貧困と根強い差別について、ケニア側実行委員にも考えてもらうことができる貴重な機会となった。

（担当：古賀 悠美子）

宮島文化視察

日時：8月14日

場所：宮島

目的

古き町並みの散策と、伝統ある神社への参拝を通して、日本の歴史や文化を学ぶ。また、吉川家にホームステイさせて頂き、日本の現代の暮らしを体験するとともに、交流を深める。

概要

世界文化遺産に登録され、日本三景の一つである広島宮島へ行き、厳島神社に参拝した。宮島では紅葉まんじゅうを食べたり、鹿と戯れたり、日本の伝統的な工芸品などを見て回った。神社参拝では、ケニア側実行委員に一連の参拝動作を説明した。干潮時には徒歩で大鳥居まで行くことができるが、訪問時はできなかった。ホームステイでは、吉川様の皆様、吉川家と交流を持つ大学生の方と交流を行った。

評価

海に浮かぶ神社の美しさに皆で感動を共有することができた。おみくじを引いたり、賽銭を投げて祈ったりして、日本の文化や神道に触れることができ、ケニア側実行委員にとっては刺激的な経験になったようだ。ホームステイでは、温かい歓迎を受け、和やかに交流ができた。夕食をふるまって頂いたお礼に、朝食はケニア料理を作り、食を通した異文化交流の場にもなった。

(担当：奥中 郁巳)

広島平和学習

日時：8月15日

場所：平和記念公園

目的

核なき世界を目指す時代の今、悲慘な歴史を繰り返さないために、原爆が投下され多くの人々が犠牲となった広島で、改めて平和とは何か、平和の意義について考える。

概要

平和記念公園を訪れ、住廣寿子さんの英語によるガイドで、公園内を回り、原爆ドームとドーム近辺にある爆撃を受けた建物の地下を見学した。第二次世界大戦の歴史について話を伺い、平和記念資料館内では展示物や被爆者の体験談映像を視聴した。また、被爆者の月下美紀さ

んから原爆や平和メッセージに関する資料を頂いた。

評価

今までの机上の平和学習と、実際に悲慘な歴史をもつ地を訪問して学ぶことには大きな違いがあった。新たに得る知識も多くあり、平和の尊さについて改めて考えさせられた。世界平和をどのようにして導き、築いていくかということを考える良い機会になった。

(担当：照喜名 流風)

阪神高速(株)訪問

日時：8月16日

場所：阪神高速(株)大阪本社

目的

アフリカ諸国の国際化にあたり、陸海におけるインフラの整備は必要不可欠である。近年、中国がケニア国内の道路開発を一手に担っていたが、2013年春、阪神高速(株)が日本企業として初めての道路開発をモンバサ港周辺で受注した。これは、ケニアが中国の資本依存を脱したという点、日本がケニアに事業を展開できたという点で大きな意味をもつ出来事である。そこで、今回の訪問では、開発における現場雑感や今後の指針・課題について直接尋ねる。

概要

阪神高速(株)にて、ケニアの「モンバサ港周辺道路開発事業」の詳細を伺った。

評価

インフラの整備というとハード面を連想しがちだが、ソフト面に注力しているという事例について伺い、日本の強みが良くわかった。阪神高速(株)はケニアに技術移転を進めるために、ハード面ではなくソフトの面のコンサルティングを重視しているという。実際に、ケニアにはインフラ整備に十分な技術も資本もある。それでも自力の発展を実現できないのはノウハウの蓄積が先進諸国と比べて圧倒的に足りないからだ。中国資本は現地中国人を雇い、ケニア人の雇用を奪うばかりか、行程を中国語で説明するため、一向に技術移転が図られない。一方で、日本の資本が積極的にメンテナンス等の長期ノウハウを移転しようとしていることが今回の事例ではっきりすれば、今後日本が中国に代わって受注を得られるのではないだろうか。

(担当：有賀 康祐)

大阪・京都文化視察

日時：8月16日

場所：大阪城、京都市内

目的

大阪城を実際に見学することで、日本の歴史を学ぶ。五山送り火を見て、その背景と歴史を知り、日本の伝統を知る。また、ホームステイをさせて頂き、日本の文化や日常を体験する。

概要

周辺の公園や堀などを散策し、大阪城を見学した。京都では、鴨川に架かる橋付近で五山送り火を見た。その後、ホームステイ先に移動し、日本の一般家庭の生活を体験するとともに、交流を深めた。

評価

ケニア側実行委員は、大阪城の歴史を知り、約400年も前に作られたことに驚いていた。築城主は豊臣秀吉であること、何度も改修を加えられて現在の形をしている等の歴史背景を学びながら見学し、日本の歴史の一面を知る機会となった。五山送り火は、死者の霊を送る行事であると説明し、日本人が大切にしている文化に触れることができた。ホームステイ先の方は温かく迎えてくださり、素晴らしい時間を過ごすことができた。

(担当：内田 あす香)

京都文化体験

日時：8月17日

場所：創作着物アトリエ「夷風」

臨済宗妙心寺派大本山妙心寺

目的

日本の文化である着物、京町家、禅やお寺に関して、本職の方々を訪問し話を伺うことによって、日本の伝統や人々の考え方を学ぶ。

概要

着物作家の南進一郎さんのアトリエ「創作着物アトリエ夷風」を訪問し、着物とアトリエの京町屋の説明を受けた。その後、皆でかき氷を作り、竹の台を使って流しそうめんをした。臨済宗妙心寺派大本山妙心寺を訪問し、小倉大岳和尚の案内で開山堂、法堂、明智風呂を見学した。開山堂は一般非公開だが、特別な計らいにより、拝観することができた。

評価

着物アトリエでは、ケニア側実行委員は、着物を羽織らせてもらったり、初めてのかき氷や流しそうめんを食べたり、日本らしい体験ができた。妙心寺では、歴史ある建築物の内部を実際に見学することができ、その趣深さを感じた。

(担当：溝口 聡美)

国際環境 NGO

グリーンピース訪問

日時：8月20日

場所：NGO グリーンピース日本事務所

目的

ケニアでは、電力の需要超過の現状があり、2015年までに原子力発電所の建設が目標とされている。日本では、福島ของ事故でその危険性が指摘され、新たな電力資源の利用が叫ばれる一方、原子力発電プラントの輸出も進めている。原子力発電の危険性とクリーンエネルギーの利用拡大を訴えている NGO 団体で直接話を伺い、今後の両国のエネルギーのあり方について考えを深める。

概要

NGO グリーンピースを訪問し、原子力発電やクリーンエネルギーについての話を伺った。

評価

太陽光発電を普及させる方法として固定価格買い取り制や、省エネの方法として断熱材の一種であるインスレーションを建築に用いるなど、自然エネルギーの促進のためにできる様々な工夫について、話を伺うだけでなく、ともに議論することができた。また、原子力発電については、管理のために大量の水を必要とするため、水資源の枯渇が問題となっている

ケニアには適さないという指摘がケニア人の印象に残ったようだった。

(担当：坂本 ほの香)

(株)ゼンショー

ホールディングス訪問

日時：8月20日

場所：(株)ゼンショーホールディングス東京本社

目的

アフリカ地域で日本企業が進める事業の一例と、その事業によって互いの国がどのような利益を得ているのかを理解する。また、日本企業で働くアフリカ人へのインタビューを通して、今後、アフリカと日本が築くべき関係、どのようにグローバル世界で共存していくかを考える。

概要

フェアトレード事業の関係者、タンザニア出身のセバスチャンさんによる講義を聴講した。前者の講義では、(株)ゼンショーホールディングスが独自に行うフェアトレードのシステムについての説明を受けた。後者の講義では、彼が日本で働く理由や、アフリカ地域の発展についての彼の考えを伺った。

評価

(株)ゼンショーホールディングスのフェアトレードシステムと、そのシステムの利点を理解した。現在行われているフェ

アトレードのあり方について考えることができた。セバスチャンさんの講義から、日本とアフリカ地域のつながりを感じることができた。また、今後のアフリカ地域の発展に必要となることを考えることができた。日本で働くアフリカ出身の方と深く議論できる機会は少ないので貴重な体験であった。

(担当：安部 美里)

JICA 訪問

日時：8月21日

場所：JICA 東京本部

目的

JICA が提供しているケニアまたはアフリカ全地域における教育支援活動について学ぶ。また、そのプロジェクトがケニアとアフリカ諸国の将来へどのように影響するのかを理解する。

概要

JICA を訪れ、ケニアにおける教育改善の立ち上げや過程の講義を小森明子さんより受講し、質疑応答を行った。中等理数科教育計画プロジェクト(the Strengthening of Mathematics and Science in Secondary Education “SMASSE”)について多くのことを学んだ。

評価

SMASSE は約 15 年間続いており、今年末に締結する予定である。ケニアの初等学校とアフリカ全域の学校に渡って拡大されており、さらにアフリカだけでなく、アジア（マレーシア）との連携もある。分科会のために有力な情報を得ることができ、貴重な学習機会であった。

(担当：照喜名 流風)

JETRO 訪問

日時：8月21日

場所：JETRO 東京本部

目的

日本は、ケニアから主にコーヒー、紅茶を輸入し、車を輸出している。日本とケニアの大きな貿易格差をどうすれば縮小できるかについて考えるための情報を得る。アフリカ諸国の中で経済成長が目覚ましいケニアと日本のこれからの貿易の動向について考える。

概要

JETRO は日本企業の海外事業展開や外国企業の日本への誘致、開発途上国の支援と研究等を行っている。実際に JETRO がどのような活動を行っているのかについての話を伺い、新しいケニアの可能性について議論を行った。

評価

JETRO の役割について教えて頂き、日本企業のケニアへのアプローチの仕方について理解できた。日本とケニアの産業についての議論では、ケニアの新しい貿易の可能性を考えることができた。例を挙げると、日本はケニアから切り花をオランダ経由でのみ輸入しているという情報を訪問前にはもっていたが、直接ケニアからも輸入しているという事実を伺った。多くのケニアからの輸入品がフェアトレードを介して日本市場で流通しているとのことなので、今後そのような事例が拡大すれば貿易格差問題の解決にもつながるだろう。

(担当：佐藤 寿樹)

IBM 東京基礎研究所訪問

日時：8月21日

場所：IBM 東京基礎研究所

目的

日本などケニアよりも発達している国々の IT 情勢を知る。IT の分野において、世界的に有名な企業を訪問することで、新たな知識を得る。日本がどのように IT 界に名をあげたのか、また、その高い技術力を生かして、世界が直面している様々な問題にどのように取り組んでいるのかを知る。IT 化がどのようにして進むのかについて考える。

概要

IBM 東京は「より賢い街づくり」の開発の計画を進めている。この1つの例として、ケニアの交通渋滞を解消すべき計算と分析のシステムについて話を伺った。このプロジェクトでは道路にカメラを設置しこれを分析することによって、また過去のデータを利用してどのような交通規制が有効的なのかなどを調べている。IBM アフリカでも地域の企業や大学と連携することによって企業理念を達成しようと試みられている。

評価

IBM 職員の方々の素晴らしいプレゼンテーションに深く感心し、IT に関してとても興味を持つようになった。技術がどれほど進んでいて、それによってどのように様々な問題が解決されているのかを実際に見ることができ、貴重な体験だった。

(担当：杉村 亜美)

横浜市立神橋小学校訪問

日時：8月22日

場所：横浜市立神橋小学校

目的

TICAD の開催などを通してアフリカ諸国の存在感は日本国内で年々増しており、それに伴い、いわゆる国際社会教育の内容も、西洋文化偏重のものから、ア

フリカ諸国にも目を向けたものへと変化を迫られている。そんな背景で、横浜市立神橋小学校では垣崎校長が中心となり、「地球市民教育」を推進している。今回の訪問では、実際にどのような形で普段は馴染の少ないアフリカ文化を児童に紹介するのかを学ぶと共に、ケニア側実行委員と一緒に児童と交流することで、国際教育の一端を担う。

概要

横浜市立神橋小学校の児童と一緒に”Jambo Bwana”という歌を歌い緊張をほぐしてから、ケニアの位置や自然、使用されている言語等の基礎知識について紹介した。ひとしきり質問を受けた後には、中庭で”kati”というドッジボールの様なケニアのゲームをして交流をした。昼食も一緒に食べ、アフリカに関するたくさんの質問を受けたので、日本側実行委員の通訳を介しながら、1つずつケニア側実行委員が回答をした。一連の児童との交流の後には、垣崎校長から、神橋小学校のグローバル教育に向けた取り組みの数々について、スライドを用いながら説明して頂いた。

評価

訪問するまでは、自分たちと異なる人種の学生を見て児童が怖がるのではという心配もあったが、それは全くの杞憂だった。質問がこれでもかという程あり、

児童の関心は非常に高かった。訪問直前にも JICA 研修員との交流があったことで、そうした機会通じて、普段から国際的な視野に触れているからこそ、このような折に相手に聞きたいことが生まれるのだと思う。

(担当：溝口 聡美)